

# 伊野小学校の再編を考える検討委員会 「中間報告書」

## －「伊野小学校存続か統合か」を考える視点－

2014,3,3,23

### はじめに

伊野小学校の児童数は今年度 61 人ですが、8 年後の平成 34 年には 47 人と推定されています。東小学校の今年度の児童数は 135 人、平成 34 年には 125 人、檜山小学校は今年度 59 人ですが、平成 34 年には 52 人と推定されています。

このような状況のもとで、平成 24 年、出雲市教育委員会は伊野小学校・東小学校・檜山小学校の再編計画を提案しました。これを受けて伊野地区自治協会は、昨年 2 月、「伊野小学校の再編を考える検討委員会（以下「検討委員会）」を立ちあげ、検討を重ねてまいりました。

この 1 年間の議論を「中間報告書」という形でまとめ、皆様にお知らせいたします。

また、検討委員会が奥出雲町立亀嵩小学校（地域から学校を無くさないという町政方針のもとで存続している児童数 34 人の小規模校）と、大田市井田地区（旧温泉津町にあった小学校 4 校が統合し、学校が無くなった地域）を視察し、聞き取った内容をまとめた報告書（別紙）も添えますので、伊野小学校を存続させるのか統合するのかについて、活発な議論を展開していただきますようお願い申し上げます。

## 1 再編を考える論点

伊野小学校の再編の賛否を考えるため、子どもにとって最善の選択は何か（A分科会）、地域にとって何が課題か（B分科会）、という 2 つの視点で検討を重ねてきました。

両分科会で論点として浮かび上がったことを紹介します。

### （1）子どもにとって最善の教育環境はどうあるべきか（A分科会）

#### ①複式学級になった場合、子どもの学力に不安はないのか

2 学年合わせた児童数が 16 人以下（1・2 年生では 8 人以下）になると、2 つの学年を合わせて 1 つの学級（複式学級）にします。伊野小学校でも平成 26 年度から 3 年生と 4 年生が複式学級になります。算数では同じ授業時間に 3 年生は 3 年生の内容を 4 年生は 4 年生の内容を別々に学習し、教師は 1 人で両方の学年の指導をします。（これを「わたり授業」と言っています）「わたり授業」では、一方の学年に教師がつく場合、他方の学年は自学（問題を解いたり子供同士で話し合い活動をしたり）すること

になります。

他の教科は、3・4年生と一緒に授業を受けます。そのために、3・4年生の学習内容を構成し直して、4年生の学習内容を3年生の時に学んだりする特別な学習計画をつくります。

こうしたやり方をしたときに子どもの学力が低下しないか、という不安が保護者の間にあります。一方、少人数の授業は一人ひとりの子どもに目が届き、子どもの能力に応じた丁寧な教育ができるという意見もあります。

この点について、亀嵩小学校の教職員やPTA役員は「複式学級でも学力についての心配はない」と語っていました。統合した旧井田小学校（統合時の児童数24人）でも保護者の間で学力についての心配はなかったそうです。

複式学級とそうでない学級との間に学力差が生まれるのか、学力差にはどのような要因がからんでいるのかなど、全国的な研究の成果を調べてみる必要があります。

なお、平成26年度は算数科についてのみ「わたり授業」を行います。文科省の指導により、平成27年度以降は複式学級の全教科で「わたり授業」を行うこととなります。

## ②児童数が少ないと、学校の教育活動にどんな影響が出るのか

複式学級が生まれること以外に、次のような困難が生まれます。体育の授業で、学年単独ではサッカーやバレーボールなどチーム・スポーツを行うことができません。伊野小学校では、すでに2学年合同の体育を行っています。音楽の授業では、合唱など多数の子どもがいるから成り立つ活動ができにくくなります。運動会では、チームに分かれて競い合う活動に影響が出ることもあります。

## ③小集団の中で協調性やコミュニケーション能力などの「社会性」が育つのか

小集団でクラス替えもない中、子ども同士がとりむすぶ関係が固定化され、子どもの社会性が育ちにくくなるのではないかと、いじめ問題などが起きたときに、クラス替えができる規模の学校が望ましいのではないかと、という意見があります。

この点について、亀嵩小学校の保護者は、異学年の子どもたちとの交友関係が広がっており、心配はしていないと語っていました。学校も「全校児童が1つの家族」と考えて、各学級での朝礼をやめて、「全校朝の会」を開くなど、集団づくりに工夫をこらしています。

小学生に期待する「社会性」とは何なのか、「社会性」が育つためにはどれくらいの規模の集団が必要なのか（同学年や異学年、保護者・地域の人々を含めて）、さらに、子ども同士や子どもと大人の間でどのような応答関係（関係の質）が求められるのか、などの検討が必要です。

## ④小規模校出身の児童が大規模中学校に適應できるのか

小規模校出身の子どもたちは中学校の大規模集団に適應しにくいという意見があり

ます。平成34年度、向陽中学校に進学する児童数は伊野小5人、東小29人、檜山小13人と推計されています。これに灘分小の児童を加えても、1学年が2～3学級になるだろうと思われます。向陽中学校は大規模校ではありませんが、小規模校の子どもたちがより大きな集団の中に投げ出される時には様々な困難や戸惑いを感じることでしょう。

小学生が中学校に進学したときに感じる「勉強の仕方、テストのやり方、先生との関係、友だち関係」などについての戸惑いを「中1ギャップ」と呼んでいます。このギャップを小さくするために出雲市では大規模校に「スクール・サポート・ティーチャー」を配置して対応しています。

「中1ギャップ」は学校規模だけではなく、学習内容や学習方法（中学校では教科によって先生が違う、定期試験があるなど）の要因もからんで生じるものと思われます。

「中1ギャップ」に対応するため、奥出雲町立仁多中学校の校区にある亀嵩小学校を含む7小学校は、小学校時代から交流を深める「小中一貫教育」によって「中1ギャップ」を埋め、不登校生徒を減らすなど、大きな成果をあげているそうです。当面、小中一貫教育として向陽中学校区の4小学校が行っている交流事業を一層充実させていくことが求められます。

#### **⑤東幼稚園で3地区一緒に過ごした子どもたちが、小学校で3つに分かれ、中学校で再び一緒になるという今のあり方がどうなのか**

統合すれば、東幼稚園で培った子どもたちの関係、保護者の関係を深めるとともに、幼小中一貫教育という点でも成果が期待できるのではないかと、という意見があります。

しかし、親の仕事の関係で保育所に通う子どもたちもいるので、幼小中一貫教育という視点だけで論じることはできません。

#### **⑥多様な能力・個性を持つ教職員の確保が難しくなるのではないかと**

伊野小学校は今年度、6学級ですが、来年度は3・4年生が複式学級になるので5学級になります。小規模校では教職員数も少ないので、音楽や体育など専門性を持った教師の確保が難しくなるかもしれません。また、少人数の教職員が学校教育の様々な分野を担当しなければならないので、教職員の負担が大きくなるのは避けられません。

亀嵩小学校では、地域の「人材」を学校教育の中に取りこむことで、弱点を補うとともに学校の活性化につなげています。伊野地区でも学校と地域との連携・支援体制を一層充実させることが求められています。

### **(2) 地域や保護者にとっての課題は何か (B分科会)**

#### **①地域の自然や歴史・伝統文化を学び・伝える活動が維持できるのか**

地域の人々や保護者の支援を得て、伊野小学校では米づくりを行ったり、宍道湖のシジミ漁を体験したり、「地域で学ぶ」「地域を学ぶ」活動をたくさん行っています。統合すると、こうした活動が減ることは避けられません。

伊野コミュニティセンターや社会福祉協議会などが、書道教室や3世代交流事業など多くの子育て支援事業を行っていますが、こうした活動も見直しが必要になります。

井田地区では温泉津小学校に「地域に出かけて学ぶ機会を維持する」ように要望し、温泉津小学校も校区内のすべての地区に出かけて学ぶ機会をつくるように努力していますが、統合前のように頻繁に地域にでかけて学ぶという機会は減っています。

## ②体育祭や文化祭など地域の行事が衰退するのではないか

井田地区では体育祭に地区児童全員の参加が難しくなり、小学校4年生以上の児童に役員として参加してもらうなどの工夫をしています。また、小学校の教職員が参加しなくなったため放送設備の使い方がわからないなど、戸惑いもありましたが、地区住民の協力で体育祭や文化祭を継続しています。

統合を選択した場合には、伊野地区でも行事の内容や運営について根本的な見直しが求められます。

## ③児童数の減少に伴ってPTA活動に支障が出ないか

少ない会員数でPTA活動の運営に支障をきたさないのか。この点について、亀嵩小学校PTA（会員数24人）では、校庭の草刈に自治会や消防団の支援を得るなど、地域の協同体制をつくりあげています。

亀嵩小PTAは会員の交流を深める活動や子どもたちにお弁当をつくらせる活動などを展開し、地域と学校が一体となった活動が評価され、昨年度、「優良PTA活動文部科学大臣賞」を受賞しました。

## ④遠距離通学に伴ってどのような問題が生じるのか。

統合となれば、児童の通学手段を確保しなければなりません。スクールバスを導入するか、生活バスで代替するのか、通学手段の確保は重要な検討事項になります。学校との時間距離が遠くなることによって、子どもの送り迎えに不便が生じることは避けられません。

また、バス通学に伴い子どもの運動量が減り体力低下につながること、みちくさが無くなり、地域の自然を知る機会が減ることなどの問題も生じてきます。

## ⑤放課後の学童預かりはどうなるのか

放課後の子どもたちを、だれがどこで預かるのか。統合を選択した場合に直面する課題です。歩いて帰宅することはできません。お家で面倒をみる人がいない場合、放課後の児童を預かる場所を確保しなければなりません。現在、伊野児童館が果たしている役割を統合小学校もしくはその近くの場所に設けなければなりません。さらに、伊野コミセンを舞台に展開されている書道教室や英語教室など、放課後の子どもたち

の受け皿として用意されている様々な活動が維持できるのか、という点についても不安はつきません。子どもの迎えについても不便が生じることはさげられません。

#### ⑥伊野小学校の校舎・校庭の管理はだれが行うのか

平成10年に小学校・幼稚園・公民館併設の学校として建設された旧井田小学校校舎は現在、1階は公民館と幼稚園、2階はデイ・サービスとして利用されていますが、校舎や校庭の維持管理に苦勞しています。年1回、ボランティアを募って校舎内の掃除や校庭の草取りを行っているそうです。

統合を選択した場合、伊野小学校校舎を残すのか残さないのか、残すとしたらどのような活用が可能なのか、維持管理にだれがどのような責任を負うのかは、重要な検討課題になります。伊野地区の公共施設は伊野小学校と伊野コミュニティセンター、伊野児童館の3つしかありません。体育祭や文化祭、ママさんバレーなどの社会体育は主に小学校とコミセンを舞台に展開されています。統合を選択した場合、伊野小学校校舎・校庭の存続と適正な管理体制が求められます。

#### ⑦社会体育として行われているスポ少などの活動に支障が出ないか

子どもたちのスポーツ要求を満たすためにサッカークラブやバレーボールクラブ、陸上教室など様々な活動が地域の指導者の献身的な努力によって展開されていますが、メンバーの減少によって様々な困難に直面しています。

奥出雲町も旧温泉津町も、スポ少の活動を町単位に広げて組織しています。統合するかしないかにかかわらず、スポ少のあり方については検討が求められます。

#### ⑧地域コミュニティが弱体化しないか

学校がなくなると、子どものいる若い世帯が地区外に出ていく傾向が強まるのではないかと、人口減少に歯止めがかからなくなるのではないかと、という心配があります。

一方、複式学級がある学校で子どもを学ばせたくないという保護者が地区外に移り住んだり、伊野地区出身の家族が戻って来ない可能性があるのではないかと、という意見もあります。

どんな地域・学校をつくっていくのか。その展望を見いだせるかどうか、選択に際して重要な要因になると思われます。

## 2 再編案についての意思決定をどのように行うか

伊野小学校を存続させるのか、統合の道を選ぶのか、伊野地区にとって歴史的な選択をせまられています。大多数の合意を形成し禍根を残さないために、伊野地区を構成する町内会やPTAなどの諸団体、各世帯・個人の皆様のご意見をくみ取る努力を続けます。

具体的な議論は「検討委員会」を中心に進めます。また、伊野小学校児童の保護者や東幼稚園園児保護者、その他、乳幼児の保護者の意見を聞くために「保護者会」を開催し、

意見集約に努めます。

昨年5月、伊野小学校 PTA が行ったアンケート調査によれば、統合に賛成の意見が多数を占めました。理由としては、「学力についての不安」「複式学級になった場合、子どもの負担が大きくなるのではないか」「いじめがあった場合、少集団であることによって問題解決が困難になる」「スポーツ活動に支障が出る」などが挙げられていました。反対意見としては、「子どもが育つ環境とは基本的に人である。地域の人々と一緒になった伊野小学校の教育を大事にしたい」「学校がなくなると地域がさびれる」などの理由が挙げられていました。26年度は、保護者の皆様に小規模校でありながら存続している学校と、学校がなくなった地域を視察する機会を提供し、判断の参考にさせていただきたいと考えています。

今後、「中間報告書」をもとに皆様に議論していただき、ご意見を集約したうえで来年1月に「最終報告書（案）」をお示しする予定です。

最終報告書（案）をもとに保護者会や町内会・諸団体等で議論していただいたうえで、最終報告書をまとめ、来年3月の伊野地区自治協会代議員会に提案し、伊野小学校を存続させるか否かについて最終判断を行う予定です。

しかし、学校再編については東地区や檜山地区との連携や協議も必要となってきますので、他地区の進捗状況によっては日程がずれこむことも予想されます。

### 3 経過

#### 2012年（平成24年）

- 11月18日 出雲市教育委員会が「出雲市学校再編計画」について地元説明会開催
- 11月26日 出雲市教育委員会が「出雲市学校再編計画」について保護者説明会を開催

#### 2013年（平成25年）

- 2月15日 第1回検討委員会
  - 検討委員会の規約や役割について承認
  - 保護者会運営規約と役割について承認
  - 意思決定の手順（ロードマップ）について承認
  - 検討委員会の今後の活動について意見交換
- 5月2日 PTA 保護者アンケート実施
- 6月27日 第2回検討委員会
  - 今後の検討課題について議論。検討委員会の中に子どもの問題を考える A 分科会と地域の問題を考える B 分科会を設置することを確認。
  - 今後、複式教育を行っている学校と学校がなくなった地域の視察を行うこと

を確認。

8月1日 第3回検討委員会

○複式教育を行っている小規模校と学校が無くなった地域を視察して、何を調査するのかをA, B分科会で議論。

11月23日 学校・地域視察

○小規模校を多くかかえながらも学校の統廃合は行わないとする奥出雲町の亀嵩小学校を視察。校長・教頭、PTA 会長・副会長から小規模校の魅力や課題に対する取組について聞いた。

○旧温泉津町にあった4つの小学校が統廃合し、地域から学校が無くなった大田市井田地区を訪ね、井田まちづくりセンター長や大田市教委等から統合の経過や地域の現状と課題について聞いた。

12月12日 第4回検討委員会

○学校・地域視察の報告書(案)について議論。

○A, B分科会に分かれ、視察結果について意見交換を行った。

**2014年(平成26年)**

2月18日 第5回検討委員会

○中間報告書(素案)について検討を行った。

○今後の日程について話し合った。

2月28日 第1回保護者会運営委員会

○中間報告書(素案)について検討を行った。

○運営委員会のメンバーと役員体制について話し合った。

○今後の保護者会の活動と日程について話し合った。